詳細分布調査報告書

横田町の遺跡 Ⅱ

—鳥上地区—

1999.3

島 根 県

横田町教育委員会

例　　言

1，本書は、平成10年度、国庫・県補助事業として横田町教育委員会が実施した町内遺跡分布調査の報告書である。

2，調査地は、横田町鳥上地区地内（39,64㎢）を実施した。

3，調査体制は次の通りである。

調査主体　　横田町教育委員会　教育長　浅野俊夫

調査指導　　島根県教育庁文化財課　高橋一郎（町文化財専門委員）　木原　明（同）

調査担当　　高尾昭浩（横田町教育委員会主事）

調 査 員　　杉原清一（島根県文化財保護指導員）　藤原友子、木村公平

調査補助員　廣田英資（横田町派遣社会教育主事）　平良直也（横田町教育委員会）

事 務 局　　中沢光政（横田町教育委員会教育次長）　徳江良弘（次長補佐）

4，本書の分布地図は、島根県の承認を得て森林基本図（１／5,000）の地図を１／15,000に縮小して使用した。

5，埋蔵文化財包含蔵地は、その種類によって６大別し、赤色の記号で表した。
なお、その種別が２種類以上にわたって重複するときは、その主要なもので代表されている。

6，本書の遺跡番号は、島根県遺跡地図番号を踏襲している。

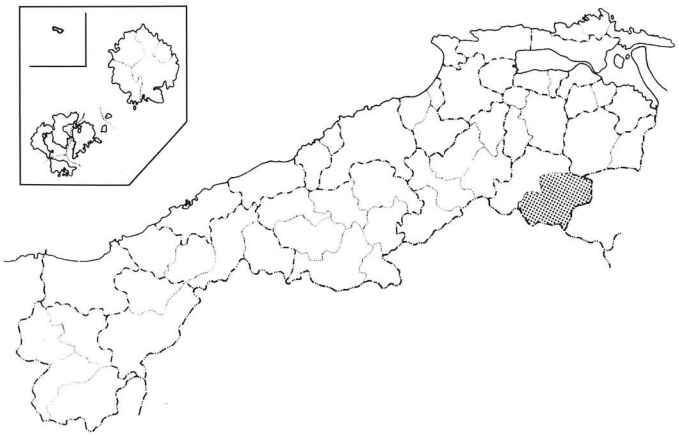
7，分布調査は踏査による地表面の観察調査によるものである。したがって、本書に掲載されている遺跡の他にも存在する可能性がある。

8，調査にあたって、次の方々から協力を受けた。記して謝意を表します。

荒川俊晴　荒木久行　内田房吉　児玉哲郎　佐世川徳雄　白根久四　古崎壮一　　畑　　清

部田利徳　部田芳治　部田修三　宝田好倶　村尾賢二郎　諸角岩雄

9，調査により作成した遺跡台帳は、横田町教育委員会で保管している。



目　　次

調査区位置図 …… 1

遺跡一覧表 …… 10

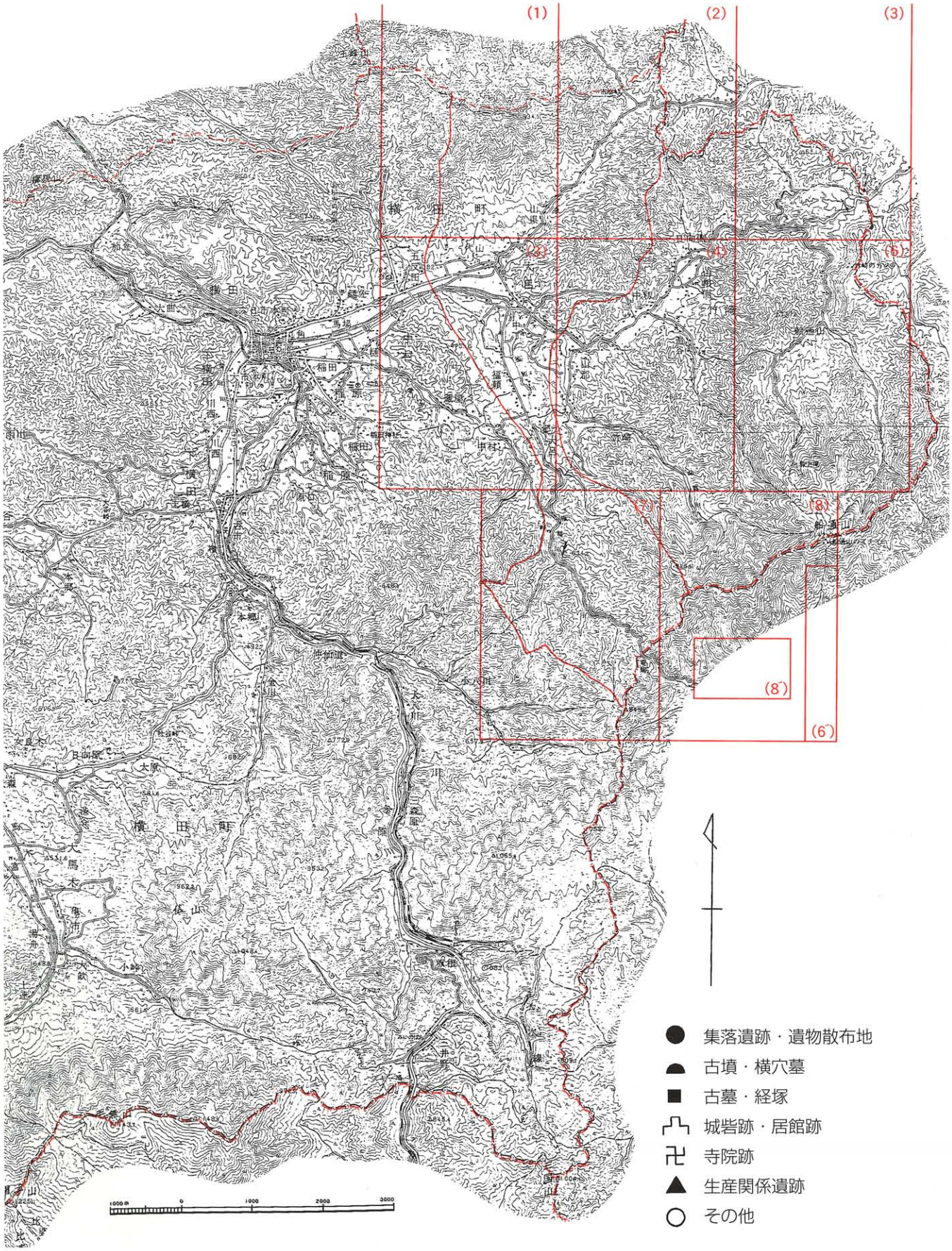
立地と遺跡分布の概要 …… 14

主な遺跡 …… 16

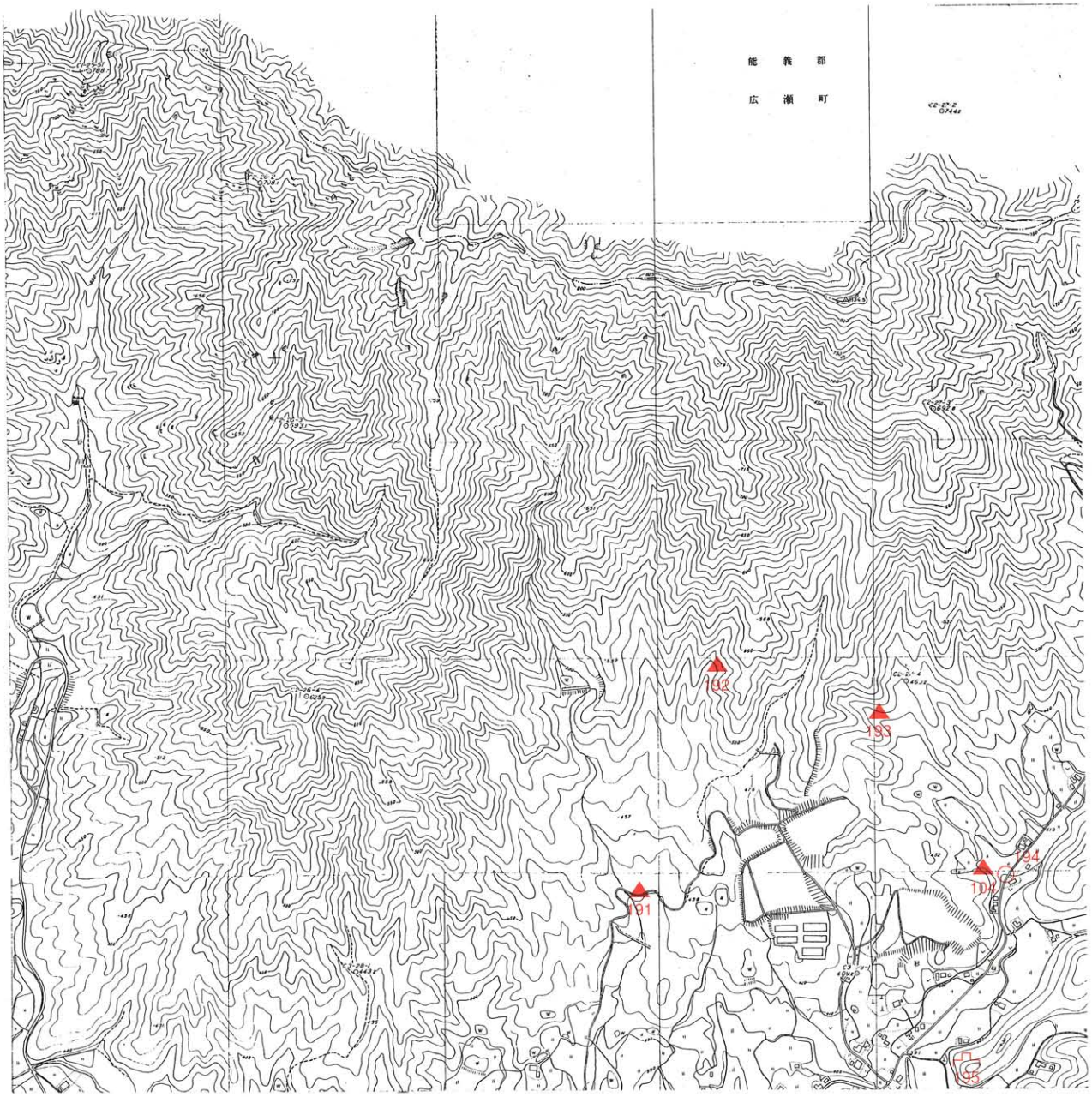
遺跡数集計表

	集落・散布地	古墳・横穴	古墓・経塚	城館砦跡	寺社地跡	製鉄遺跡	その他	計
船通山					1(1)	20(2)		21(3)
日向側	2(2)					14(2)	1	17(4)
山根側					1(1)	2(1)		3(2)
追谷	1(1)					14(1)		15(2)
中籾		2(1)		1(1)	1	5		9(2)
山郡	1	1(1)	1(1)			19(4)		22(6)
竹崎(計)	4(3)	3(2)	1(1)	1(1)	3(2)	74(10)	1	87(19)
中丁	3(1)	3(2)		4		2		12(3)
福頼	1(1)				1	22(2)	1	26(4)
山県			1(1)	1		17(5)	1	19(5)
代山	3(3)	4(1)				2		9(4)
大呂(計)	7(5)	7(3)	1(1)	5	1	43(7)	2	66(16)
合計	11(8)	10(5)	2(2)	6(1)	4(2)	117(17)	3	153(35)

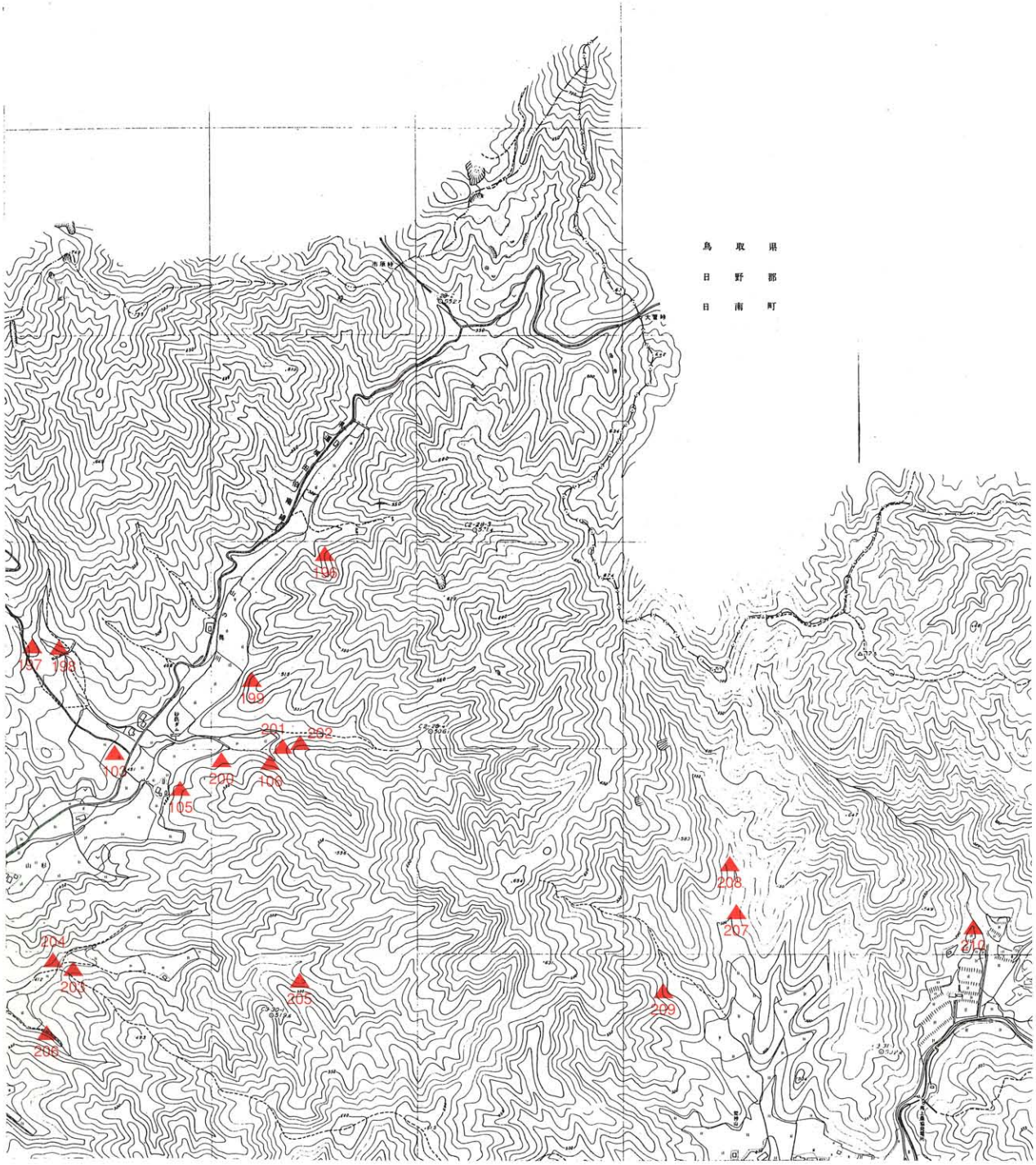
( )は内周知数


(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(8')
(6')
横田町
横田
稲田
中村
本郷
横田町
1000 m
0
1000
2000
3000
集落遺跡・遺物散布地
古墳・横穴墓
古墓・経塚
城砦跡・居館跡
寺院跡
生産関係遺跡
その他

調 査 区 域 図（鳥上地区）



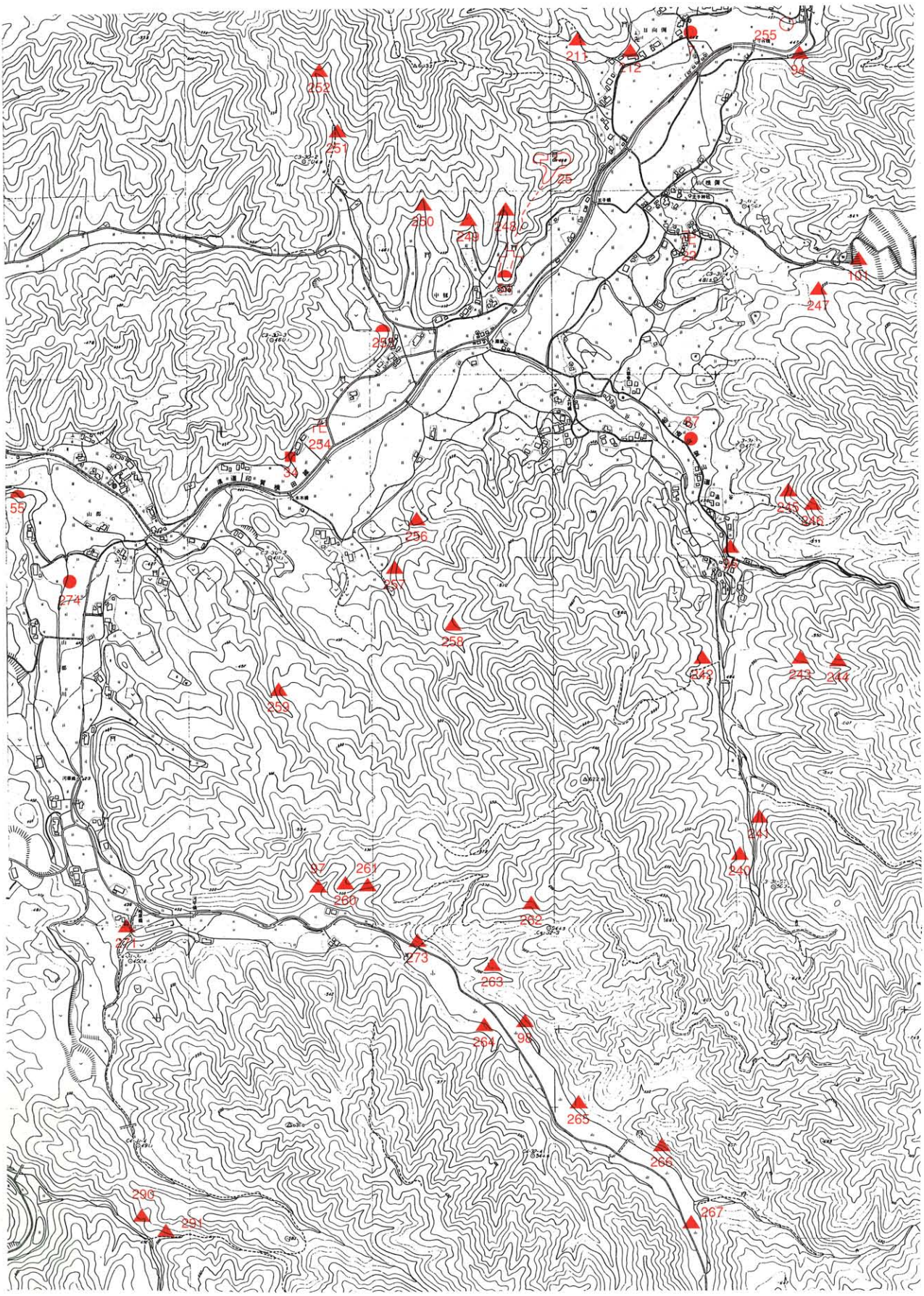
分 布 図（1）


鳥取県
日野郡
日南町
196
197
198
199
201
202
203
200
106
105
208
207
210
204
211
205
209
206

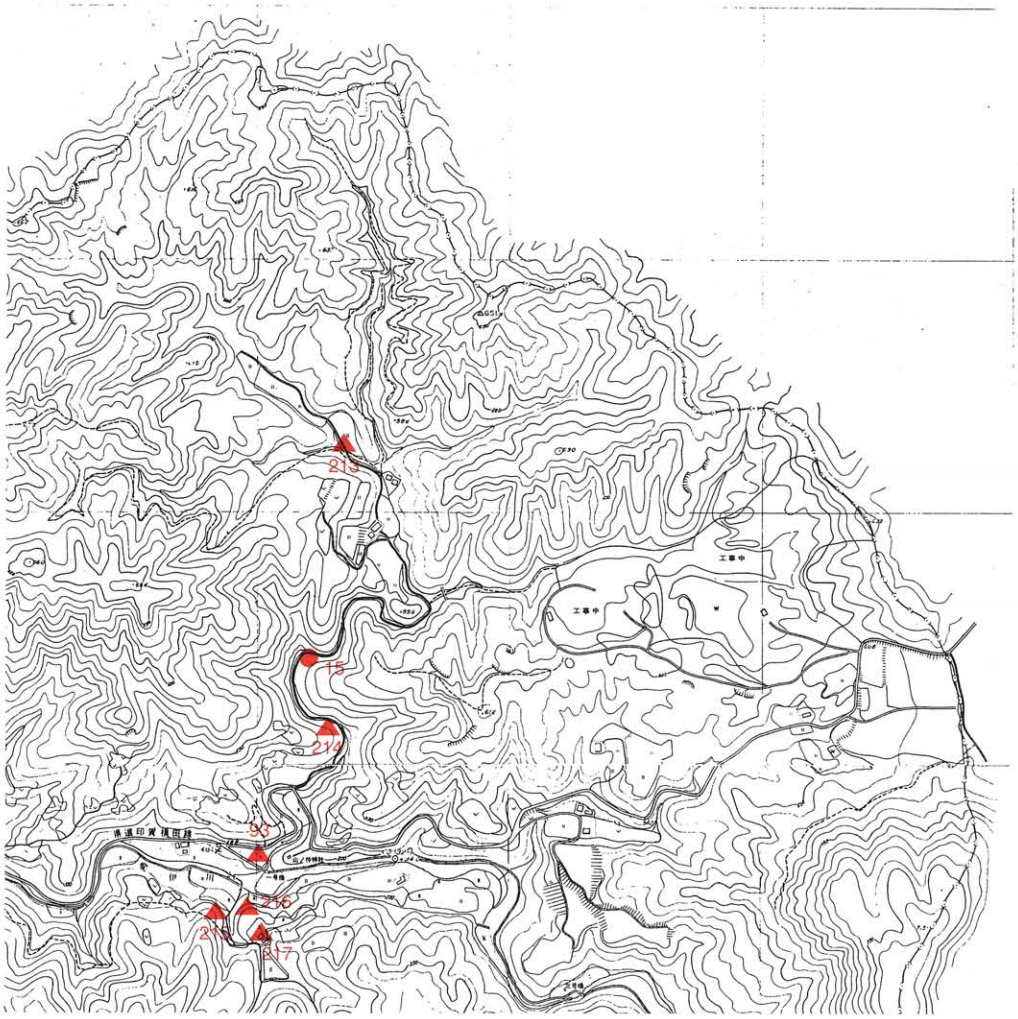
分布図（2）

60
307
306
308
8
81
297
305
301
304
48
300
303
59
299
294
302
295
296

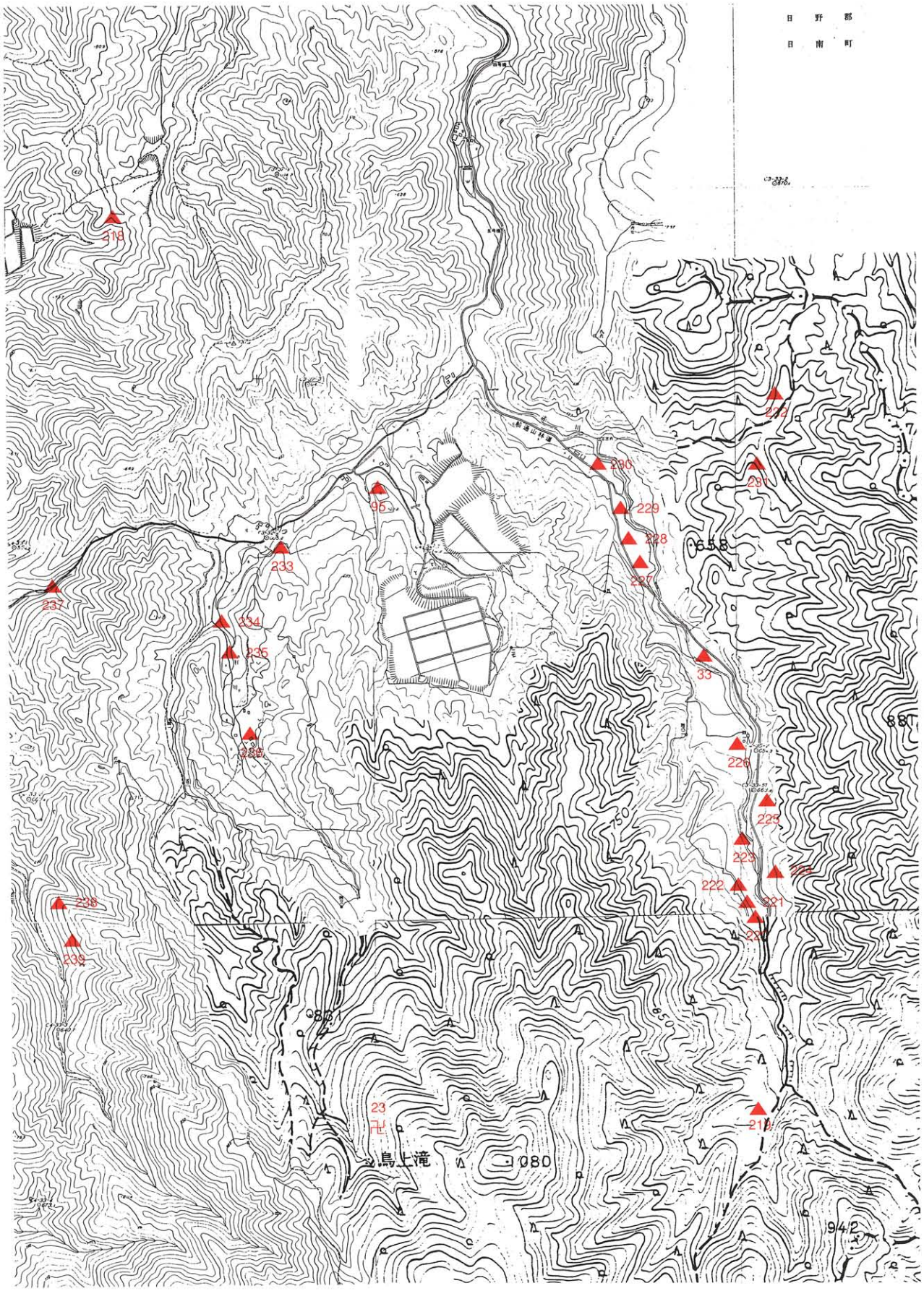
分 布 図（3）


211
212
255
94
252
251
25
250
249
248
22
101
247
254
34
87
55
245
246
256
257
274
258
242
243
244
259
241
240
97
261
260
262
271
273
263
264
96
265
266
267
290
291

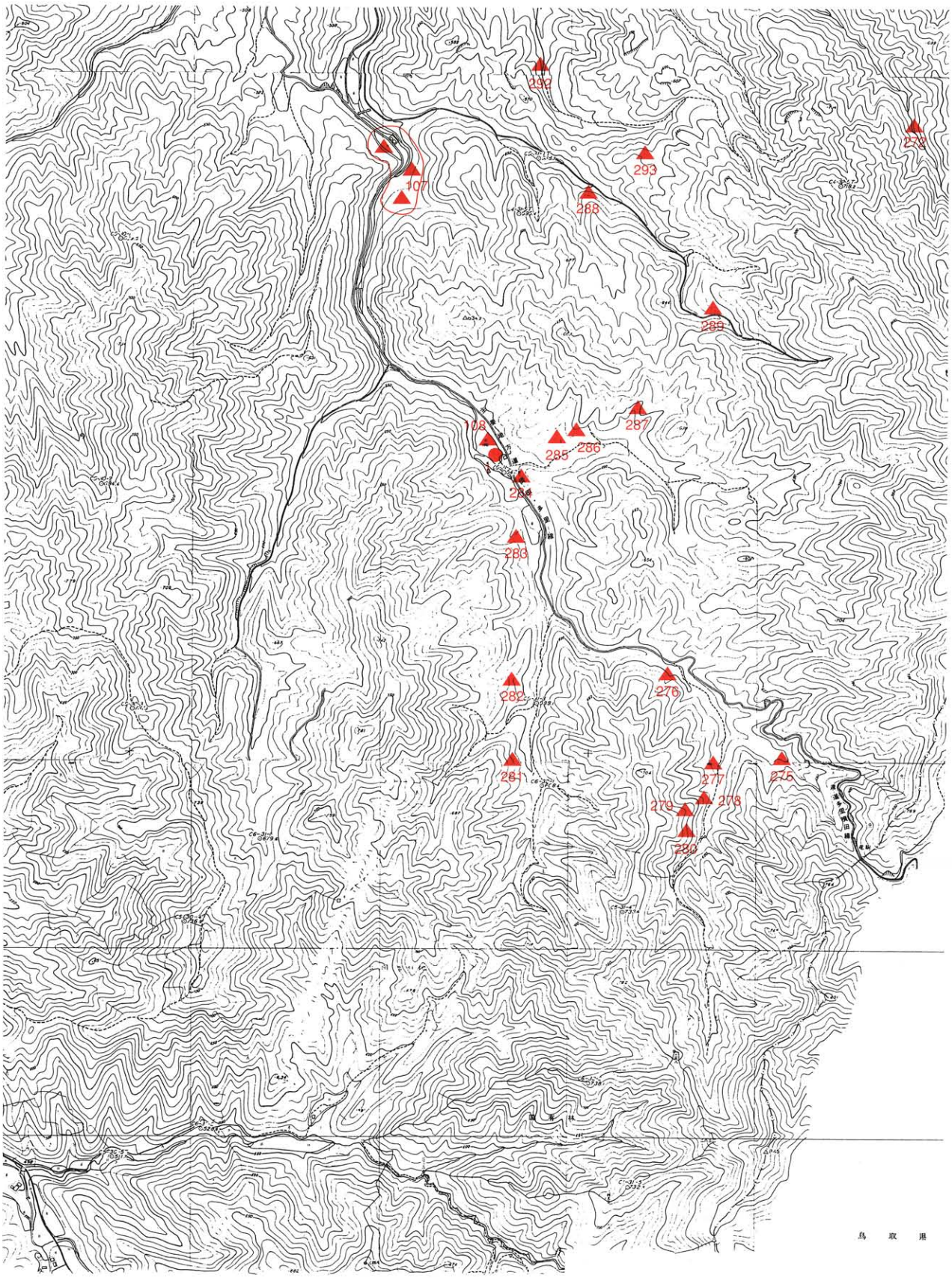
分 布 図（4）



分 布 図（5）


日野郡
日南町
218
96
233
237
234
235
236
238
239
232
230
231
229
228
227
33
226
225
223
222
221
211
23
卍
鳥上滝
080
658
880
850
942

分布図（6）


292
293
272
288
107
289
287
108
285
286
284
283
282
276
281
277
275
279
278
280
鳥 取 県

分 布 図（7）

分布図(8)

遺　跡　一　覧　表

船通山地区

	名　　称	種　別	所　在　地	現　況	概　　要	地図No
23	船通寺跡	寺院跡	竹崎　船通山	山林	伝説の寺院　現地特定不能	6
33	亀石鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　亀石	山林	林道に小舟部開口、ト蔵家経営の近世高殿鈩、付近に山内遺構保存良好　町指定文化財	6
219	亀石谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　亀石	山林	野鈩様式　大型の鉄滓露呈	6
220	亀石谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　亀石	山林	野鈩様式　鉄滓	6
221	亀石谷Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　亀石	山林	野鈩様式　鉄滓	6
222	亀石谷Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　亀石	山林	野鈩様式　鉄滓	6
223	亀石谷Ⅴ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　亀石	山林	野鈩様式　鉄滓	6
224	亀石谷Ⅵ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　亀石	雑種地	高殿様式　鉄滓	6
225	亀石谷Ⅶ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　亀石	山林	野鈩様式　鉄滓	6
226	亀石谷Ⅷ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　亀石	山林	高殿様式　鉄滓	6
227	亀石谷Ⅸ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　亀石	山林	野鈩様式　鉄滓	6
228	亀石谷Ⅹ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　亀石	原野	野鈩様式　鉄滓	6
229	亀石谷Ⅺ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　亀石	水田	野鈩様式　鉄滓	6
230	亀石谷Ⅻ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　亀石	水田	水田畦鉄滓散布	6
231	ヌタ転谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　ヌタ転び谷	山林	野鈩様式　大型鍛塊有り	6
232	ヌタ転谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　ヌタ転び谷	山林	野鈩様式　鉄滓	6
95	双子谷鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　双子谷	山林	放置された鍛塊あり　町指定文化財	6
233	双子谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　双子谷	畑	高殿様式？　鉄滓	6
234	双子谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　双子谷	山林	野鈩様式　鉄滓	6
235	双子谷Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　双子谷	原野	野鈩様式？　鉄滓	6
236	双子谷Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　双子谷	水田	野鈩様式？　鉄滓	6

日向側地区

7	竹崎井西遺跡	散布地	竹崎　井西	水田・畑	磨消縄文土器片、須恵器、土師器等　平成４年試掘でも遺構不明	4
15	小万才遺跡	（出土地）	竹崎　小万歳	道路	縄文土器（押し形文）土器片１点採取　道路工事に伴うか	5
93	万歳鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　万歳	道呂・他	中世～近世鈩炉床５基以上が重複している。大半県道敷地として消滅	5
94	竹崎高炉跡	製鉄遺跡	竹崎　万歳	水田	大正基角炉を築いたところ、開田により消滅	6
213	小万丈鈩Ⅰ跡	製鉄遺跡	竹崎　小万歳	水田	野鈩、鍛塊出土　水田にて消滅か	5
215	万歳中倉谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　万歳中倉谷	山林	高殿か　鉄滓	5
216	万歳中倉谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　万歳中倉谷	山林	野鈩様式　鉄滓	5
217	万歳中倉谷Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　万歳中倉谷	宅地	住宅下　鉄滓　消滅？	5
218	万歳中倉谷Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　万歳中倉谷	山林	鉄滓、鉄穴にて一部消滅	5
207	日向側大原Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　大原	山林	野鈩様式　鉄滓	4
208	日向側大原Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　大原	山林	野鈩様式　鉄滓	2
209	日向側大原Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　大原尻	山林	野鈩様式　鉄滓	2
210	日向側滝谷鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　滝谷	山林	野鈩様式　鉄滓	2
211	日向側名ナシ迫鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　名ナシ迫	山林	野鈩様式　鉄滓	4
212	日向側製鉄跡	製鉄遺跡	竹崎　日向側	山林	野鈩様式　鉄滓	4
214	羽内谷鉱山鉄穴流し本場	製鉄遺跡	竹崎　小万歳	雑種地	町指定文化財	5
255	竹崎番所跡	その他	竹崎　番所	水田・畑	近世松江藩番所跡、伯州往還に面した一段高い平面、一部道路にて破損	4

山根地区

22	観音寺跡	寺院跡	竹崎　観音寺	田水・畑	茶臼、鰐口、茶壺、香炉等出土、付近大龍庵、玉雲庵、薬師堂、永正庵、塔原などの地名あり	4
101	山根側鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山根側	水田	ほ場整備にて消滅か	4
247	山根側Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山根側	山林	野鈩様式　鉄滓	4

追谷地区

87	追谷遺跡	住居跡	竹崎　追谷	田・崖地	工事中発見　弥生後期住居跡　甕等９点出土	4
96	原鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　原鈩	宅地、他	昭和期「叢雲鈩」と改名操業したト蔵家最後の鈩、高殿鈩一部破損	4
237	追谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　船通山口	山林	野鈩様式　鉄滓	6
238	追谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　芦原	山林	野鈩様式　鉄滓	6
239	追谷Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　芦原	山林	野鈩様式　鉄滓	6
240	追谷Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　追谷	山林	野鈩様式　鉄滓	4
241	追谷Ⅴ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　追谷	山林	野鈩様式　鉄滓	4
242	追谷Ⅵ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　追谷	山林	野鈩様式　鉄滓	4
243	追谷Ⅶ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　追谷	山林	野鈩様式　鉄滓	4
244	追谷Ⅷ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　追谷	山林	野鈩様式　鉄滓	4
245	カガラ谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　カガラ谷	山林	野鈩様式　鉄滓	4
246	カガラ谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　カガラ谷	山林	野鈩様式　鉄滓	4
258	狼谷入口鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　狼谷入口	山林	野鈩様式　鉄滓	4
257	古屋敷鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　古屋敷	山林	野鈩様式　鉄滓	4
256	追谷湯ノ迫鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　湯ノ迫	水田山林	野鈩様式か　鉄滓	4

中籾地区

54	神垣内古墳群	古墳	竹崎　神垣内	山林	（円墳２基となっているが後世の砦と判別しがたい）板状石材あり	4
253	籾ノ木古墳群	古墳	竹崎　籾ノ木	山林	小円墳２基崖上に残存、２号墳は１/２程残存、近くに古墓あり	4
25	竹崎城跡	城跡	竹崎　城山	山林	旧名「河副城跡」を改称　尾根上70m に渡り４郭からなる。派生する丘陵上の神垣内古墳群は物見砦になっている。	4
254	惣善寺跡	寺院	竹崎　惣善寺	水田	100m²程度の水田（未ほ場）	4
248	大向上迫鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　大向奥上迫	山林	野鈩様式　鉄滓	4
249	大向中迫鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　大向中迫	山林	野鈩様式　鉄滓	4
250	ヲロシ迫鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　ヲロシ迫	山林	野鈩様式　鉄滓	4
251	籾ノ木奥Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　籾ノ木奥	山林	野鈩様式　鉄滓	4
252	籾ノ木奥Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　籾ノ木奥	山林	野鈩様式　鉄滓	4

山郡地区

274	山郡ほ場遺跡	散布地	竹崎　山郡	水田	ほ場整備工事中弥生末～古墳前期ごろの土師器片を採取　明確な地点不明消滅	4
55	山郡家の上古墳	古墳	竹崎　家の上	山林	なだらかな低丘陵上の円墳、麓の瘤城突出部も古墳か	4
34	京ヶ崎経塚	その他	竹崎　京ヶ崎	雑種地	旧路沿い突出地形上に３基の石積み塚有り、銅製経筒天文年(1535)の名あり	4
259	須郷鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　須郷鈩谷	山林	高殿鈩　鉄滓	4
97	山郡Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡	水田	高殿鈩　鉄滓	4
98	山郡Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡	林道	高殿鈩　鉄滓	4
99	山郡Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡	雑種地	高殿鈩　鉄滓	8
100	船通山鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　船通山	山林	野鈩様式　鉄滓	8
260	山郡Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡	雑種地	野鈩様式　鉄滓	4
261	山郡Ⅴ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡	水田	野鈩様式？　鉄滓	4
262	山郡Ⅵ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡奥	山林	野鈩様式　鉄滓	4
263	山郡Ⅶ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡奥	雑種地	高殿鈩　鉄滓	4

264	山郡Ⅷ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡奥	山林	野鈩様式　鉄滓	4
265	山郡Ⅸ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡奥	雑種地	野鈩様式　鉄滓	4
266	山郡Ⅹ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡奥	雑種地	野鈩様式　鉄滓	4
267	山郡Ⅺ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡奥	雑種地	高殿鈩　　鉄滓	4
268	山郡Ⅻ鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡奥	山林	野鈩様式？　鉄滓	8
269	山郡XIII鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡奥	山林	野鈩様式　鉄滓	8
270	山郡XIV鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡奥	山林	野鈩様式　鉄滓	8
271	山郡XV鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡奥	水田	野鈩様式　鉄滓	4
272	山郡畦原奥鈩跡	製鉄遺跡	竹崎　畦原奥	山林	野鈩様式　鉄滓	7
273	山郡大鍛冶屋跡	製鉄遺跡	竹崎　山郡	雑種地	大鍛冶屋跡	4

中丁地区

80	鬼神神社遺跡	散布地	大呂　鬼神神社	社・畑	神社地拡張時及び付近の畑地にて弥生土器出土という　大部分消滅	3
299	鳥上小学校グランド遺跡	散布地	大呂　小国	学校地水田	弥生～奈良ごろの土器片を包含していたという、範囲不特定　ほ場にて消滅	3
300	山根遺跡	散布地	大呂　山根	畑	丘陵一段高い畑地、弥生後期～古墳後期末の土師・須恵器片あり	3
59	多久野塚古墳群	古墳	大呂　多久野	山林	丘陵端近い緩斜面地、現墓地に石材一部露出（３号墳）１～３号とも円墳で直径10～８m,2号墳大破損	3
148	大呂川向古墳	古墳	大呂　川向	山林　畑	開畑工事で著しく破損、１～11号各10～８mの円墳、箱式石棺（１・７号）調査は１号のみで女２体	3
301	荒神廻古墳群	古墳	大呂　荒神廻	山林	低丘陵尾根～突端部、先端１号墳は前兆19mの前方後円墳、２号円墳大破損、３号円墳径８m	3
302	小国城跡	城砦	中丁小国土井	山林他	丘陵上とその東麓約200mにわたり曲輪、13土塁堀切３、館跡地推定地等あり　小規模	3
303	鬼神神社上へ砦跡	城砦	中丁　愛宕大仙	社・山林	主尾根及び支尾根上約400mに渡り曲輪が続く、一部社地として削り取られている。	3
304	山根上へ砦跡	城砦	中丁　家ノ空	山林	低丘陵痩尾根上に約250mに渡り粗略な小削平面が断続的する　臨時砦か	3
305	木舟砦跡	城砦	中丁　木舟	山林	頂部主要部は運動公園地として削平され消滅、西へ下る尾根上に掘切あり、小曲輪が連続する。	3
298	小国野鈩跡	製鉄遺跡	中丁　小国	墓地	墓地山道に鉄滓散布	3
297	中丁栃木鈩跡	製鉄遺跡	中丁　栃木	山林	野鈩様式　鉄滓	3

福頼地区

1	龍ノ駒遺跡	散布地	大呂　龍ノ駒	雑・畑	昭和20年代初期、縄文後期～晩期の土器片がクロボク土中から採取され著名となった。一部鈩跡と重複する。	7
75	都田古墓	古墓	大呂　都田	雑	丘陵端の突出頂部、周囲は鉄穴で削り取られている。石仏と共に石灰岩製五輪塔片あり	3
295	祥福寺跡	寺院	大呂　祥福寺	雑	周囲鉄穴にて削られている．近くに墓地あり	3
107	福頼精煉所跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒	山林	「下龍ノ駒鈩跡」を改称　明治期絲原家操業　広さ100m以上石垣等あり	7
108	上龍ノ駒鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒	畑・山林	畑地に開拓されていて旧状不明瞭　道を挟んだ林内は山内跡	7
275	龍ノ駒道谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒道谷	山林	野鈩様式　鉄滓	7
276	龍ノ駒道谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒道谷	山林	野鈩様式　鉄滓	7
277	龍ノ駒道谷Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒道谷	山林	野鈩様式　鉄滓	7
278	龍ノ駒道谷Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒道谷	山林	野鈩様式　鉄滓	7
279	龍ノ駒道谷Ⅴ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒道谷	山林	野鈩様式　鉄滓	7
280	龍ノ駒道谷Ⅵ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒道谷	山林	野鈩様式　鉄滓	7
281	龍ノ駒草坂谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒板谷	山林	野鈩様式　鉄滓	7
282	龍ノ駒草坂谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒板谷	山林	野鈩様式　鉄滓	7
283	龍ノ駒本谷鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒	山林	野鈩様式　鉄滓	7
284	龍ノ駒滝谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒滝谷	山林	野鈩様式　鉄滓	7

285	龍ノ駒滝谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒滝谷	山林	高殿？　鉄滓	7
286	龍ノ駒滝谷Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒滝谷	山林	高殿様式？　鉄滓	7
287	龍ノ駒滝谷Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒滝谷	山林	野鈩様式？　鉄滓	7
288	龍ノ駒細谷Ⅰ	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒細谷	山林	野鈩様式　鉄滓	7
289	龍ノ駒細谷Ⅱ	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒細谷	山林	野鈩様式　鉄滓	7
290	龍ノ駒細谷Ⅲ	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒細谷	山林	野鈩様式　鉄滓	4
291	龍ノ駒細谷Ⅳ	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒細谷	山林	野鈩様式　鉄滓	4
292	龍ノ駒板屋谷Ⅰ	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒	山林	野鈩様式　鉄滓	7
293	龍ノ駒板屋谷Ⅱ	製鉄遺跡	大呂　龍ノ駒	山林	野鈩様式　鉄滓	7
294	福頼金屋子堀鍛冶屋	製鉄遺跡	大呂　金屋子堀	山林	大鍛冶屋跡　鉄滓	3
296	福頼番所跡	その他	大呂　福頼	水田	谷奥まる位置の張りだし台状地形ほ場整備により消滅	3

山県地区

195	万歳砦跡	城砦	大呂　山県	山林	狭長な低丘陵上約90mに粗略な削平面が連続、伯耆又は能義地方への往還に対する臨時的見張り所	1
196	山奥大菅峠鈩跡	製鉄遺跡	大呂　山県	山林	野鈩様式　鉄滓	2
199	鍛冶屋床大鍛冶屋跡	製鉄遺跡	大呂　鍛冶屋床	水田	大鍛冶屋跡　消滅	2
105	柴田尻Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　柴田尻	水田	高殿鈩	2
106	柴田尻Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　柴田尻	水田	高殿鈩	2
200	柴田尻Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　柴田尻	山林	高殿様式	2
201	柴田尻Ⅳ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　柴田尻	山林	野鈩様式	2
202	柴田尻Ⅴ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　柴田尻	山林	野鈩様式（大型）	2
103	谷鈩跡	製鉄遺跡	大呂　谷鈩	水田	高殿鈩	2
197	谷鈩谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　谷鈩	山林	高殿鈩　鉄滓	2
198	谷鈩谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	大呂　谷鈩	山林	野鈩様式　鉄滓	2
104	焼鈩跡	製鉄遺跡	大呂　焼鈩	水田	高殿鈩	1
193	焼鈩谷奥鈩跡	製鉄遺跡	大呂　山県	山林	野鈩様式　鉄滓	1
206	猿倉谷鈩跡	製鉄遺跡	大呂　猿倉谷	山林	野鈩様式　鉄滓	2
203	宇龍谷Ⅰ鈩	製鉄鉄跡	大呂　宇龍谷	山林	野鈩様式　鉄滓	2
204	宇龍谷Ⅱ鈩	製鉄遺跡	大呂　宇龍谷	山林	野鈩様式　鉄滓	2
205	宇龍谷Ⅲ鈩	製鉄遺跡	大呂　宇龍谷	山林	野鈩様式　鉄滓	2
102	靖国鈩	製鉄遺跡	大呂　山県	工場	現日刀保たたら	3
194	山県番所跡	その他	大呂　山県	田	県道伯南線に沿った旧往還脇き、遺構不明　ほ場整備にて消滅　路傍に石仏	1

代山地区

8	和田山遺跡	散布地	大呂　和田	旧畑	直径約８ｍの環状配石、それに続く平坦面約35m	3
32	代山遺跡	散布地	大呂　薬師堂	林・墓	低丘陵端、弥生中～後期土器出土地　丘上の墓地・原野部にも及ぶ	3
81	和田遺跡	散布地	大呂　和田	畑・宅	和田山遺跡の麓部一帯、石器、弥生～古墳時代の主に土師器が採取された地点	3
60	安部宅上へ古墳群	古墳	大呂　的場	山林	丘陵端　方墳１基（１号）６×７ｍ　円墳１基（２号）直径７ｍ、その間に小盛土（陪塚か）直径３ｍ	3
308	下大向古墳	古墳	大呂　木の下	山林	丘陵端円墳１基直径12m　頂面に古墓あり五輪塔片散乱　粗粒質石灰岩製を含む　未発掘	3
307	大呂神社古墳群	古墳	大呂　宮ノ上	山林	小円墳２基　社殿東横の位置にあり未発掘	3
306	タイケ庵古墳群	古墳	大呂　タイケ庵	山林	小庵に続く林内　円墳２基　直径11m　テラスあり未発掘	3
191	代山Ⅰ鈩	製鉄遺跡	大呂　代山	山林	野鈩様式　鉄滓	1
192	代山Ⅱ鈩	製鉄遺跡	大呂　代山	山林	野鈩様式　鉄滓	1

立地と遺跡分布の概要

鳥上地区は横田町の東部、伯耆国との境に位置し、その往還の要路にあたる。その道はほぼ斐伊川の流れに沿って走り、本地区を東西に２分する形で流れている。横田地区と隣接する大字大呂は開かれ水田が広がる。

また、歴史的にみると鳥上の地は古事記、日本書紀に「鳥髪」「鳥上峰」として登場することで知られ、スサノオ命のオロチ退治神話の比定地である船通山の山裾にあたる。

龍ノ駒遺跡に代表される縄文土器から大呂川向古墳群、小国城など各時代の遺構が一様に見られるように、出雲国風土記に記載される横田郷の正倉が大呂地区にあったと比定されるなど、当時の中心的地帯であったことが指摘されているところでもある。

山砂鉄採取のため鉄穴流しが行われたことを示す地形の変貌が随所にみられるが、特に古くから万歳羽内谷から産する砂鉄が良質であることはよく知られ、今日に至っても「日刀保たたら」の砂鉄はこの地より採取されている。製鉄遺跡は鉄師ト蔵家に関わる原たたらをはじめ、高殿様式、野鈩様式を合わせ117ヵ所が確認され、鉄穴による消滅等を考慮すると200ヵ所は超えるものと予想される。

遺跡の分布を大きく分けると船通山を主とする中国山脈の麓、船通山、山根側、追谷、山郡、福頼各地区は豊富な山林資源を背景に古くからの製鉄遺跡が多く分布し、中丁、代山などの横田盆地に面する地区は古墳群が、中丁や中籾など中心的集落の後背には中世城郭が多くみられる傾向にある。

船通山地区

船通山地区は中国山地の脊梁、船通山の山裾に位置し、斐伊川の源流にあたり、その支流赤川の流れる亀石谷と杠川が流れる双子谷との大きく２つの谷からなる。

亀石谷には近世の鉄師ト蔵家が幕末にかけて操業した町指定文化財の亀石たたら跡を代表に大小数多くの製鉄跡が多数点在する。一方、双子谷は製鉄遺跡が確認されるものの鉄穴流しが盛んに行われた地帯であったことが見受けれ、細谷は良質のこもり小鉄が産することで知られ、原たたら跡にある「頌功碑」に見える記録的出鉱もこの砂鉄によるものといわれている。

日向側・山根側・中籾地区

斐伊川と平行して走る伯耆の往還沿いに竹崎番所跡、竹崎城跡（河副城）、井西遺跡など古代や中世の主要な遺跡が所在し、山根側には遺跡が少ない。

何れの地区も鉄穴流しが行われ地形が変わっているが、とくに伯耆と隣接した万歳、小万歳は古くより良質の真砂鉄が産することで知られ、一帯に鉄穴流しが行われた形跡を変貌していることが見られ、町指定文化財の羽内谷鉱山鉄穴流し本場は昭和47年まで稼業していた。現在も、日刀保たたらにおける砂鉄は、ここ羽内谷にて採取されているほどでその起源は古い。

追谷地区

船通山から派生する谷間に位置地し、鉄師ト蔵家最後の鈩場である「原たたら」が所在することで知られており、現在も山内遺構の面影を見ることができる。

また、工事中に発見された「追谷遺跡」は、住居内より弥生時代後期後半の土器が出土し、その土器は島根県立風土記の丘に寄託され、住居内での土器組成を知る貴重な資料となっている。

山郡地区

本地区も追谷同様、船通山を背景に富な山林を有し、山懐の林道沿いに高殿様式の製鉄遺跡が多く点在することで知られ、一様にたたら製鉄地帯である。著名な遺跡としては、伯耆往還沿いに位置する京ヶ崎経塚で、天文四年（1535）の銅製経筒が出土している。また、斐伊川と山郡川が交わる河岸段丘にかけての山郡ほ場遺跡は明確な範囲は不明であるが、弥生末期にはかなりの集落群であったことが指摘されている。

中丁地区

鳥上地区の中央部にあたり最も開けたところであり、古代の遺跡が最も多く所在する地域で、本町初見の前方後円墳も発見された。鬼神神社が延喜式にいう伊賀多気神社の前身であったともいわれ、鳥上グランド遺跡周辺は多数の弥生中～後期の土器が出土したとされている。著名な遺跡として、大呂川向古墳群は11基からなる古墳群で、一部発掘調査された。

また、本地区は伯耆の要路に位置し、新たに4ヵ所の城砦が確認されたことからも、中世戦国時代の重要な位置を占めたことが窺がえる。

福頼地区

鳥取県日南町多里越え近くの龍ノ駒遺跡（縄文）が県下で著名な遺跡として知られているが、古代の遺跡は他には現在では確認できず、どちらかというと一大たたら生産地帯であったようで、22ヵ所もの製鉄遺跡が確認された。代表的なものとしては、絲原家が明治末に操業した福頼精煉所（下龍ノ駒たたら）、既述の龍ノ駒遺跡に隣接して卜蔵家操業の龍ノ駒鈩が知られている。

また、本地区の水田はほとんどが鉄穴流しによって開田されたもので、良質のこもり砂鉄が産することで知られていたようである。

山県地区

能義郡広瀬及伯耆国にぬける往還沿いに位置し、万歳砦跡、山県番所跡などから古くからの要路であったことが窺えるが、古代に関わる遺跡は未だ確認されていない。

また、谷鈩、焼鈩をはじめ鈩床等製鉄に関わる字名が多く残っている。このことから近世に盛んに操業された地帯であることが窺えるが、後の鉄穴流しや開田で消滅したもののようである。

なお、日本美術刀剣保存協会による「日刀保たたら」が所在し、今日も操業している。

代山地区

鳥上地区の北辺で後背に仁多郡亀嵩地区と、西は横田地区と接する開けた地域で、横田郷の正倉がおかれた地と比定されているところであり、古代では郡家のおかれた仁多町高田地区と並ぶ中心的地区であったと思われる。

また、製鉄遺跡は少なく、大呂神社古墳群、安部宅上古墳群など古墳が多い。東西に流れる斐伊川を挟んで低丘陵上の大呂川向古墳群がのぞまれる。

主な遺跡

龍ノ駒遺跡

鳥取県日南町多里への県境近い道路わきの谷川に面した小緩斜地で、昭和24年畑地開墾の際、土器片が出土して注目された縄文時代の遺跡である。

遺構は不明、土器の文様は磨消し縄文でレンズ状～渦文の沈線が特徴的で縄文時代後期の「中津式」に比定される。図示のほか縄文地、粗製無文、条痕文、円形刺突文などもあったとされるが、少量とのこと、また黒曜石製石鏃も採取されたという。山深くせせらぎのほとりに営まれた季節的キャンプ地だったのであろうか。ともあれ島根県内山間部の縄文時代遺跡として最も早く著名となったところである。

小万歳遺跡　　龍ノ駒遺跡

なお、ごく近くには江戸時代たたら吹き製鉄の遺跡があり、これによる攪乱消滅の部分もあるかもしれない。

代山遺跡

南へ舌状に低く張り出す丘陵突端近くで、昭和20年頃、切り崩した畑地をつくるときに弥生土器が出土したと伝えられている。かつてこの土器には「字代山　木山豊雄氏宅付近」と墨書してあったとのこと。山陽で盛行した凹線文を巡らせる弥生時代中期のもので昭和23年学会に紹介され、当時島根県下の弥生式土器は稀であったことから、これを中期の標準土器とされていた。

なお、この付近を含む横田盆地を囲む低丘陵端裾部には数多くの弥生中・後期の遺跡が散在し、奥出雲にあって特異であるといえよう。

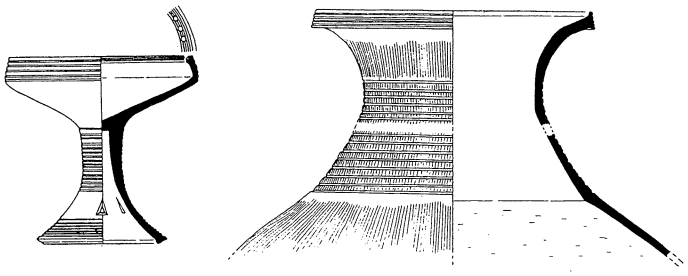
現況では遺物等は見当らないが丘陵上などには遺跡が残存する可能性がある。

追谷遺跡

弥生時代後期後半の住居跡で、昭和52年３月、追谷線改良工事中発見された。水田下に埋没していたもので、住居跡の奥部がわずかに残っていた。ここから土器が一括出土し、住居内での土器組成を知る貴重な資料とされた。

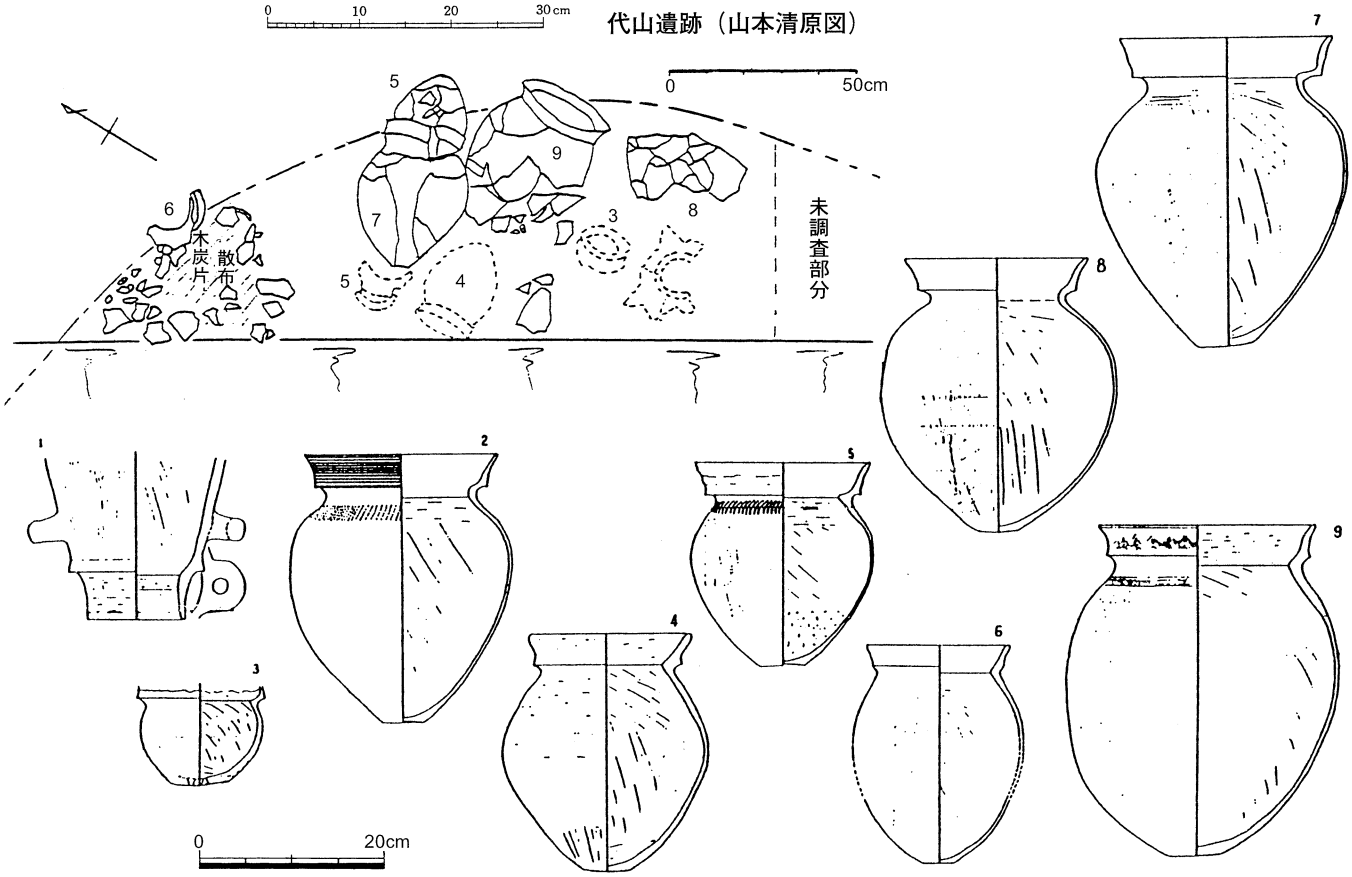
大呂川向古墳群

横田盆地の東より、斐伊川に沿った低い丘陵上に営まれた古墳群で、直径５～10cmの円墳で７基と４基の２群からなる。昭和61年度国営農地開発事業の工事中に発見され、２・３・４・８・10号墳は消滅、１号墳は中心部の石棺が調査された。



0　10　20　30cm

代山遺跡（山本清原図）



追　谷　遺　跡

長さ1.80m、幅0.35m～0.50mの箱式石棺で女性２体が埋葬されていた。壮～熟年の女性（２号人・身長144cm位）が先葬で20才代後半の女性（１号人・身長146～151cm）が追葬されていた。土器は須恵器で足端部と枕に転用したものがあり、１号人の左脇に刀子が副葬されていた。

また、石棺の前側には敷石があり埋葬儀礼の場であったかと思われる。

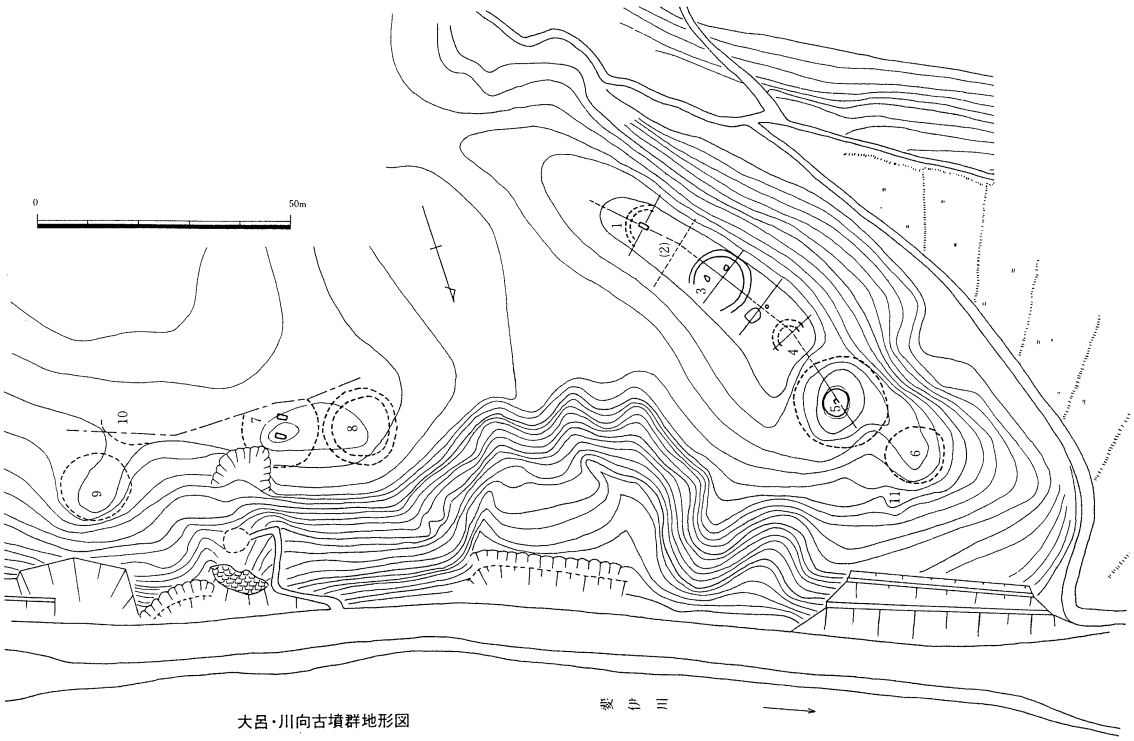
土器からこの１号墳は古墳時代中期末～後期前半のころとされた。

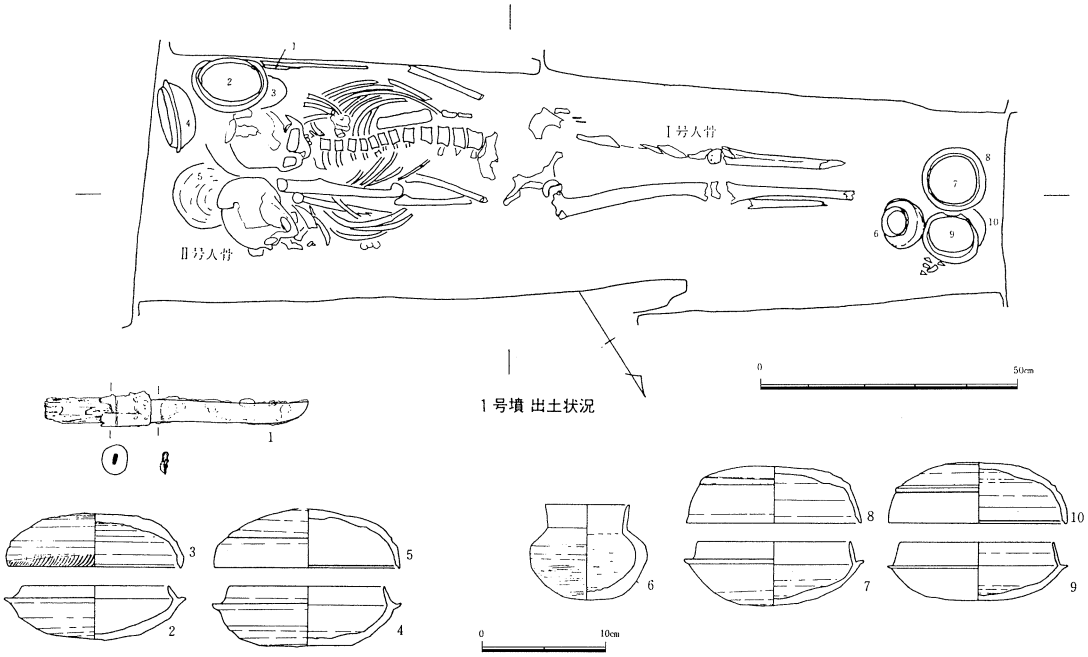
この古墳から北正面に代山集落中心部が望まれる。時代が下って奈良時代には、そのあたりに横田郷の正倉がおかれたと比定されている。

荒神廻古墳群

斐伊川を遡り字代山から南東へ大きく曲がるあたりの北側で、鳥上運動場公園となった山塊から派出する低丘陵の先端にあり、中丁集落の安部、長沢両宅の裏山にあたる。

幅10mたらずのフラットな丘陵上は起伏して先端に高まりとなり、ここに１号墳があり、それから





大呂・川向古墳群

約100m ほど離れて２号墳がある。この間に大きく掘削破損しているが、３号墳の残骸が見られる。

１号墳は小形の前方後円墳で、全長19m、後円部径約11m、高さ１～0.7m、前方部幅３m、長さ３m、長さ5.5m を測る。またこの墳頂からは西に横田盆地が広く展望できる。

２号墳は直径約10～12m の円墳でやはり削り出し整形のようである。周溝はなくテラスが半周している。

３号墳は破損が著しく明確でないが直径８m 位の円墳とみられる。

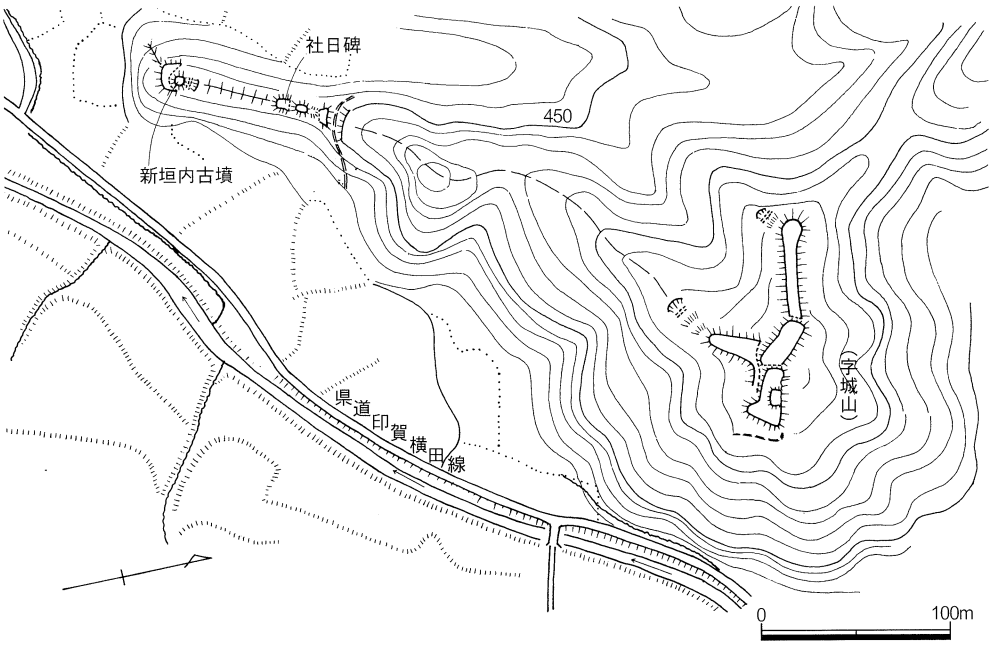
特記すべきことは、１号墳が横田町内初見の前方後円墳であることであり、この被葬者は中央政権とのなんらかのつながりがあると思われる。

なお、１号墳・２号墳の保存状況は良好である。

竹崎城跡（河副城とも呼ぶ）

竹崎の氏神王子神社の東正面にあたる比高70mの独立丘陵で南面約400mほど下降する尾根を含む字名「城山」で頂部にＹ字型に４郭を配し頂郭には方形に一段高く櫓台状の土段をつくる。

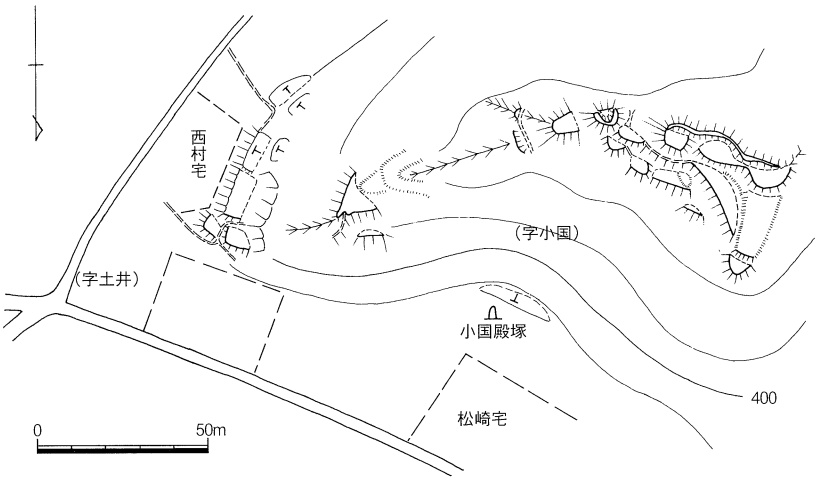
また、縄張り端の尾根には堀切りを設けているさらに南東に降る尾根端部には狭小な削平面があり、そのうち最も端部での高まるところは古墳（上神垣内古墳）を利用した物見曲輪であろう。所伝では中世末河副美作守居城と伝えて河副城として呼んでいる。伯州への往還に面しており境の城の意味もあろう。



竹　崎　城　跡

小国城跡

鳥上小学校の南後背丘陵部で独立した比高35m程の丘陵上約180mに小曲輪が連なる。頂主郭部に掘り残しの土塁があり、また堀切りとその変形であるＵ字形堀りが認められる。主郭下方の曲輪には井戸跡と思われ、小規模ながら城郭の構成である。　また、東麓には字地名「土井」が残る。付近一帯の字名が「小国」であり主郭北麓には後世による「小国殿塚」の石碑もある。小国氏については不詳であるが毛利の麾下であろうか。



小　国　城　跡

鬼神神社上へ砦跡

大呂の氏神社である鬼神神社本殿上の丘陵を主とし西隣りの支尾根を含む陵線上延べ400mにも及

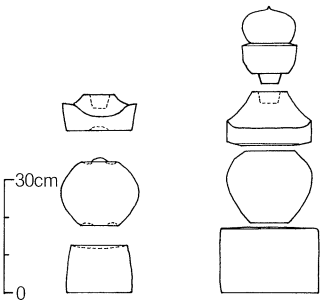
ぶ範囲でしっかりとした削平の曲輪が単純に連続する。一部鬼神神社敷地として削り取られている。堀切や土類等は認められない。支尾根部や中間の高まりにはかつて愛宕社や大山社が祀られていた。中世後期ごろ臨戦時使用の砦であったろうか。

古　墓

中世の石造墓塔に着目すると保存良好なものが少ない。ここには２点を挙げておく。

１，下大向古墳墳頂の古墓には粗粒質石灰岩の五輪塔が数基分散乱埋没している。図示の者は空風輪を欠くが、現存高39cm、水輪はやや下膨れ気味で上下のあたり部凹みにはヘソがある。

地輪はやや上窄み、火輪は厚みのものである。石材の石灰岩は備後東城産と見られ、横田町では16世紀前半の限られた時代にのも用いられたようで、本例もその一つといえよう。



下大向古墳内　鬼神神社上砦跡

なお、同質石材の塔片は福頼都田古墓にも１片みられた。

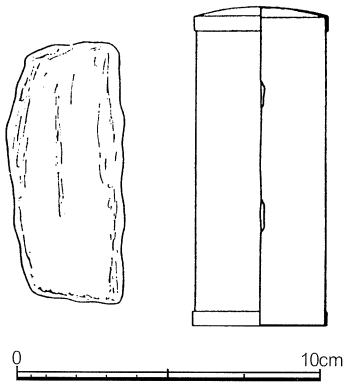
２，鬼神神社上へ砦群の末端部で愛宕社旧地の下方にある足立家墓地内に所在する五輪塔は凝灰質砂礫岩（荒島石？）で全高70cmである。空風輪は整形で火輪は軒反りがあり、水輪はやや腰高である。中世末ころであろうか。

また、この墓地の一段上への削平段にはシロコ石製の宝篋印塔の風化した残欠２基分があり、そのうち形状の判る九輪と宝珠部分は整形であるが請花は省略形である。この宝篋印塔はやや古い様相といえよう。

京ヶ崎経塚

竹崎集落の下流部で窄れる位置に北山裾から水田中に30mほど突出する土塁状の張り出しのうえに営まれた経塚群で昭和41年の草刈り跡にて経筒が採取され故荒木宗重氏の所蔵するところとなった。

経塚は先端から１～５号まであったが、現在では１～３号は明確であるが、４・５号は判別しがたくなっている。出土した経筒は３号と４号の経塚の中間あたりに露出していたもので総高10.5m,4.2mでかつての鍍金は錆化剥落しており正面の銘文は次の通りであり、なかには炭化状態の経巻１巻が入っているが、紙に墨書という以外には原形も不明である。



京ケ崎経塚出土

九劦日向国住　　敬

十羅刹女

（梵字バク）奉納大乗経王一国六十六部空然

三十番神

天文四年今月日　白

この経塚は横田から伯耆への往還に位置し中世の回国納経のルートにあたることを示すもので出雲部では希少な一例である。

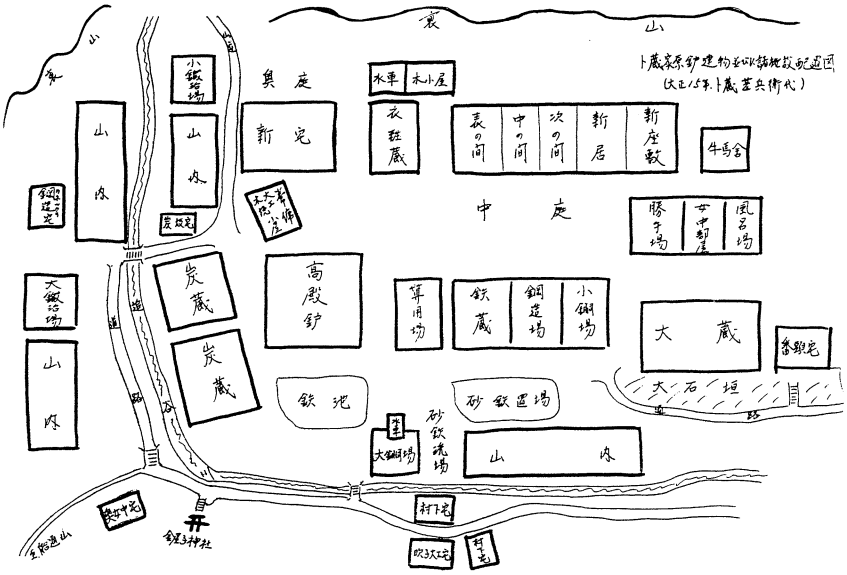
万歳たたら跡

鳥取県境に近い県道の三又路となっているところで旧状は水田であった。平成４年発掘調査が行われた。近世ト蔵家経営とみられる高殿様式１基のほかにそれ以前の野たたら様式の炉床２基以上も同埋没していた。（PL６）

原たたら跡

鉄師ト蔵家が経営する最後のたたら場で明和５年（1768）に吹きはじめ大正14年まで稼業した。

その後、昭和13年帝国製鉄株式会社が、ここの設備を復活して「叢雲鈩」と称し第２次世界大戦終結までたたら吹き製鉄を行ったところで、これらの建物は昭和30年代まで残存していた。鈩場の神木である桂の木のほとり鉄池の近くに操業最盛期の「頌功碑」がある。これによると明治31年12月26日、３日押し操業にて63駄の出鉱等が記録されている。



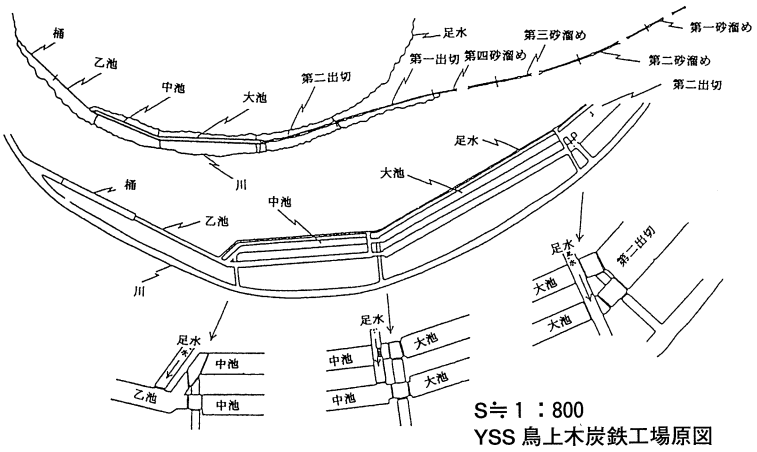
原たたら　山内の配置（佐世川徳雄・ト蔵幹夫原図）

現在は高殿の位置には木材置場の倉庫が建っているが炉の地下構造は概ね温存されているという。なお、原たたら最終期ごろの山内全体の概念図は聞き取りで記録されている。

羽内谷鉱山鉄穴流し本場

たたら製鉄の原料である砂鉄を鉄穴流し（水洗比重選鉱法）によって採取する施設で、４ヵ所の砂溜と下に続く大池、中池、乙池、桶と呼ばれる長方形の溝で砂鉄を順番に沈澱させて選別する、鉄穴流しの最終段階の施設である。

昭和47年に稼業を終えたが、現存する遺構としては全国唯一のもので、いつでも再開できるよう整備され、町指定文化財となっている。



羽内谷鉱山鉄穴流し本場見取図

参考文献

横田町誌：横田町昭和43年

雲陽誌：大日本地理大系42（雄山閣）

島根県文化財報告書第３集　昭和42年

島根考古学第２集（山本清）昭和23年

戸籍地図（切図）明治22年編成：村役場文章

大谷兵馬：『鳥上の歴史』：平成３年私家版

山陰中央新報社：『島根大百科事典』

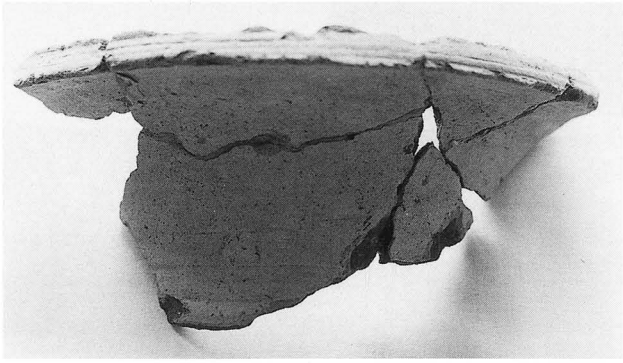
高橋一郎：奥出雲横田とたたら

菅谷鈩：昭和43年島根県教育委員会

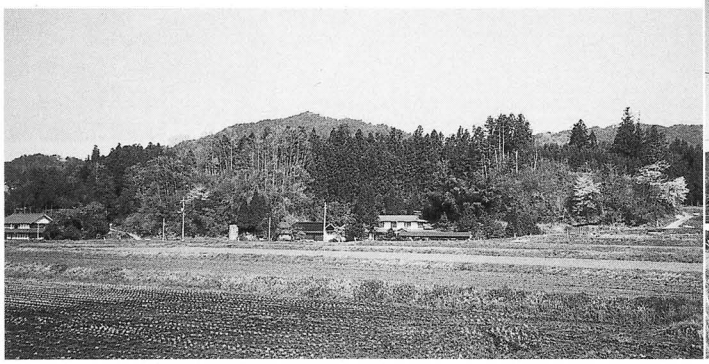
渋谷遺跡発掘調査報告書：横田町教育委員会

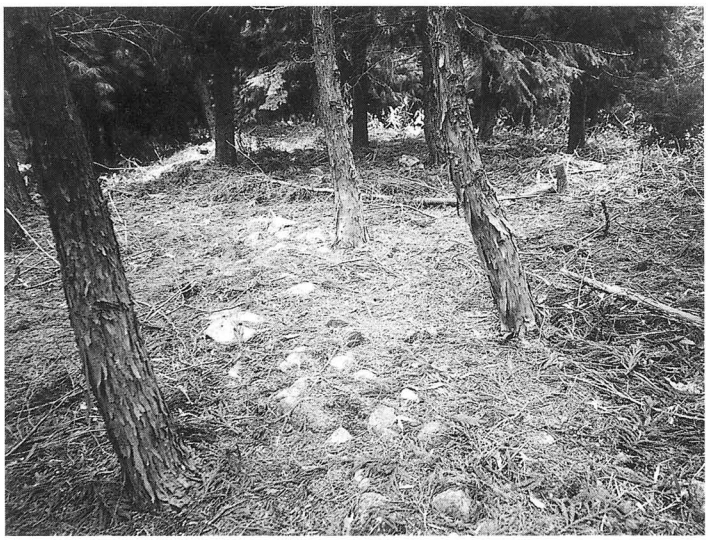
代山遺跡と
出土土器

高　坏

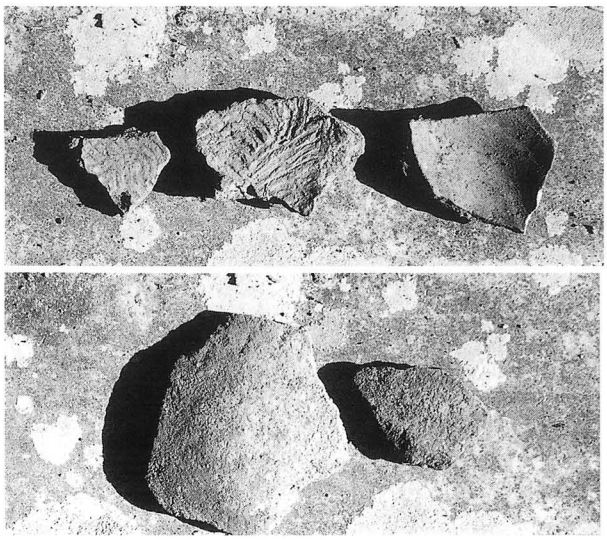


大　壷





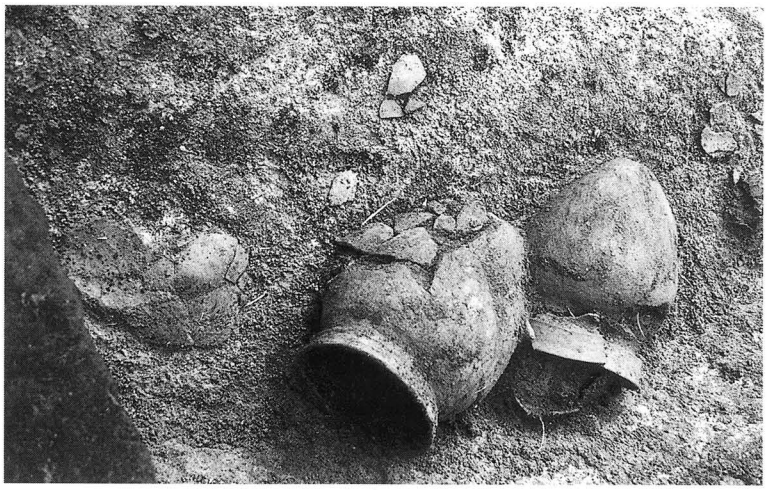
和田山遺跡とその列石



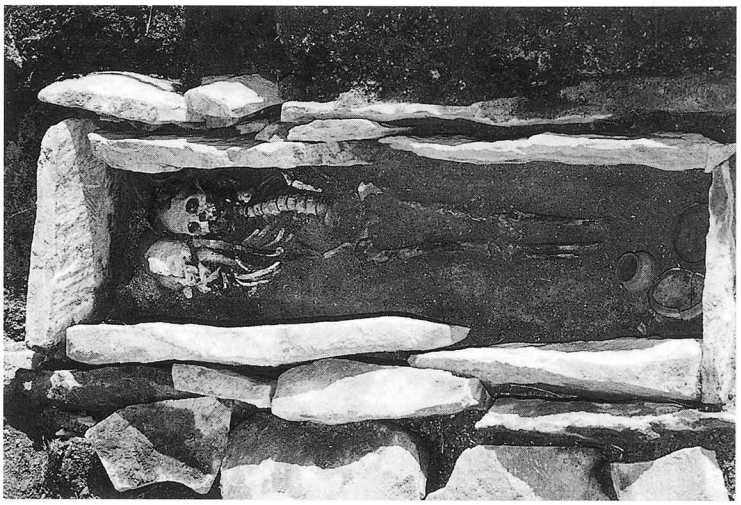
山根遺跡と出土土器片

PL 2

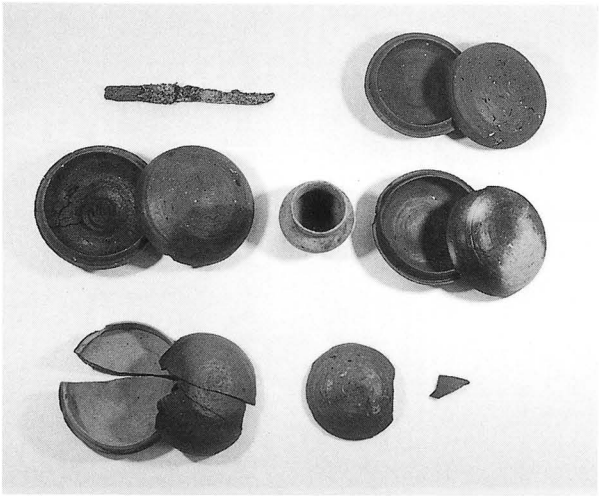
発見時状況



土器出土状況



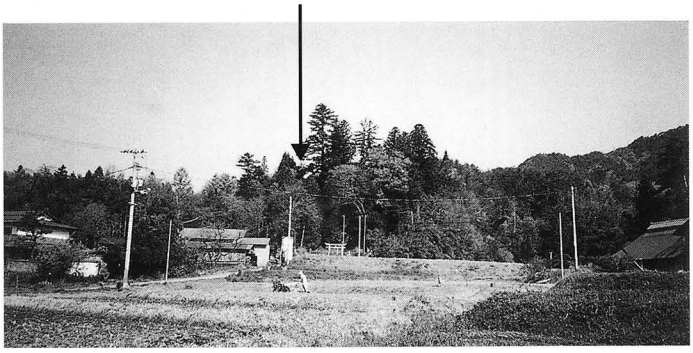
埋葬状況



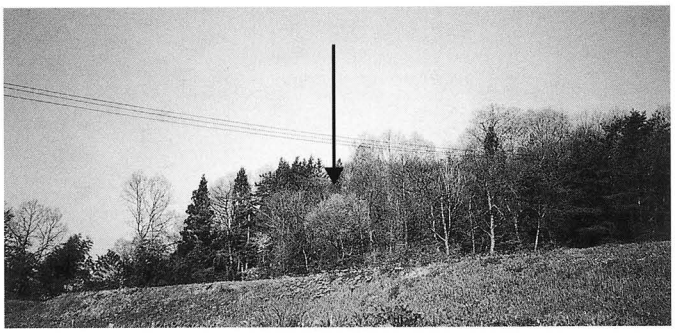
副葬品－須恵器と刀子－

大呂川向１号墳

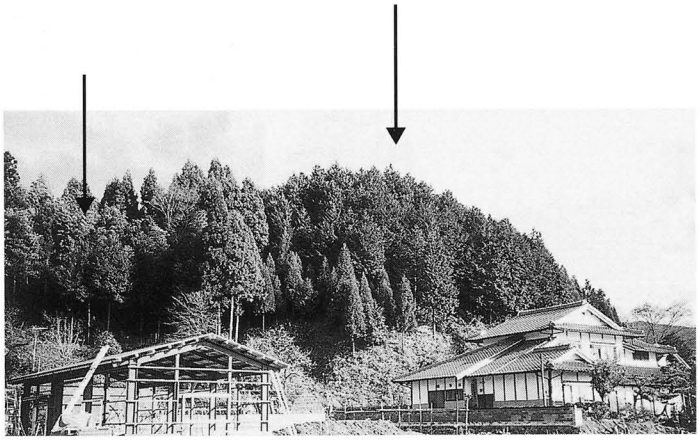
下大向古墳



大呂神社古墳群

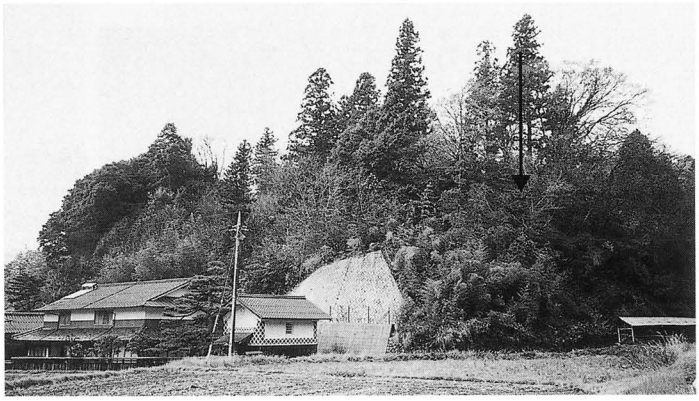


タイケ庵古墳群



荒神廻古墳群

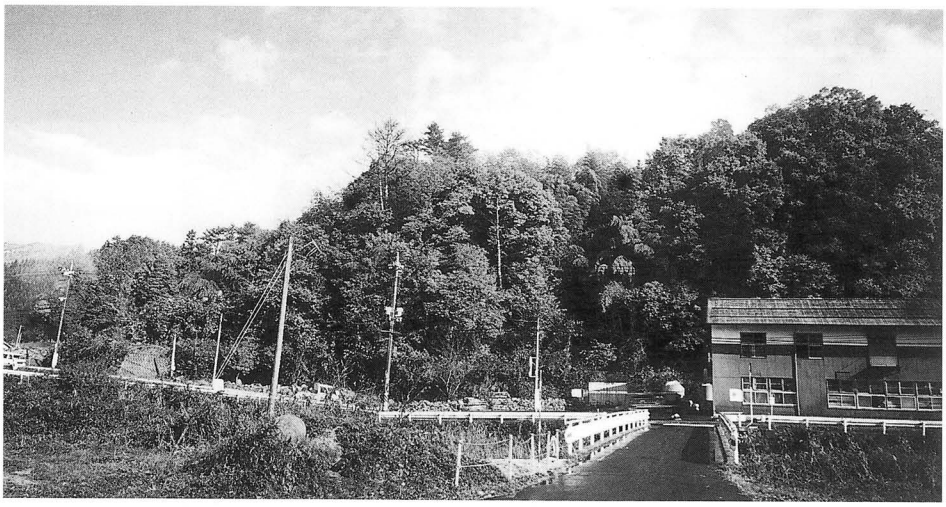
多久野塚古墳群



籾ノ木古墳

PL 4

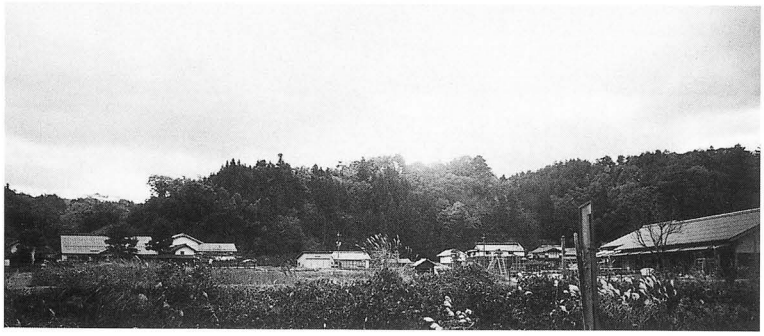
竹崎城跡



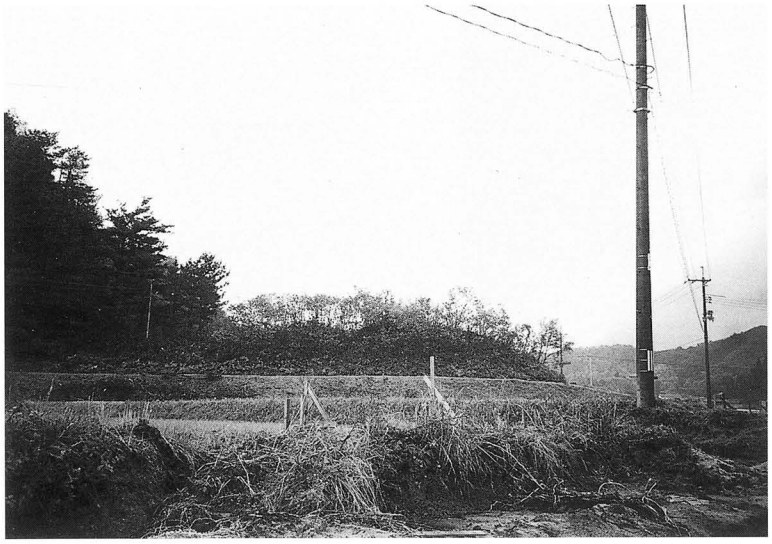
鬼神神社上へ砦跡

万歳上へ砦跡

山根上へ砦跡



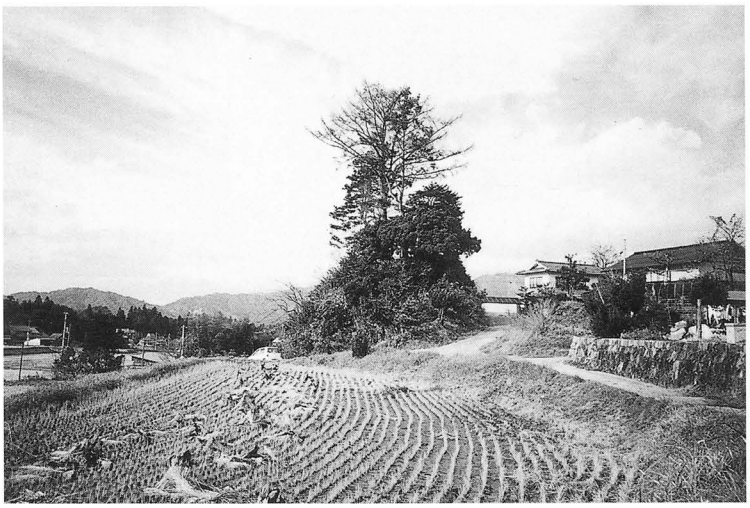
小国城跡



京ケ崎経塚群

出土経筒

下大向古墳墳頂の五輪塔（石灰岩製）

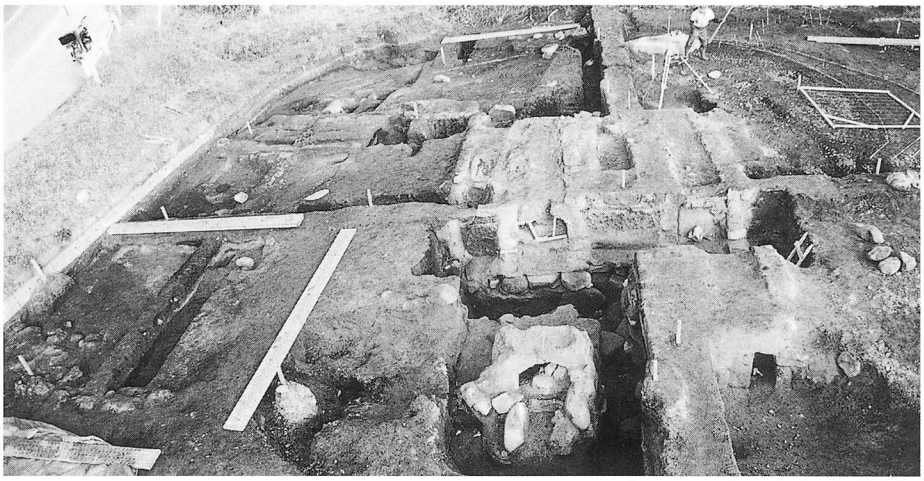


都田古墓全景

大呂愛宕下石塔（左凝灰岩製、右シロコ石製）

都田古墓－石灰炭製石塔片－

PL 6

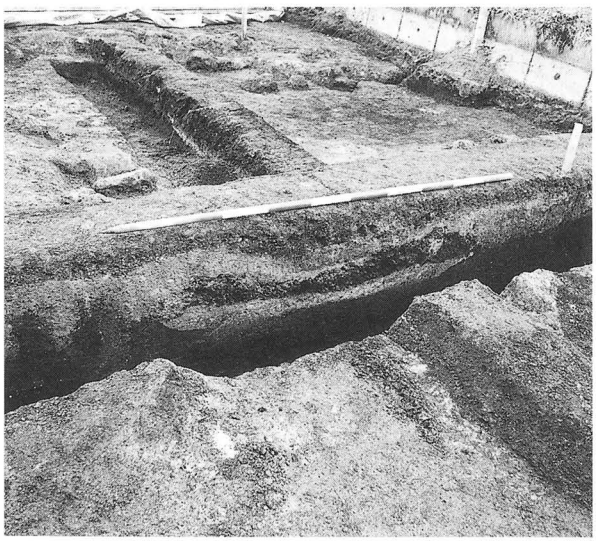


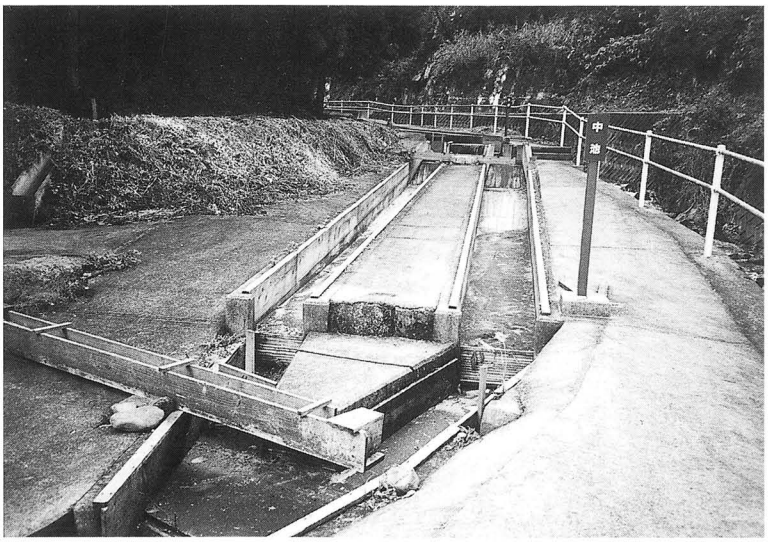
万歳たたら跡
－発掘時スナップ－

全景

高殿様式
炉床

野たたら様式炉床　２基





羽内谷鉱山鉄穴流し本場　－復元したもの－

詳細分布調査報告書

横田町の遺跡Ⅱ

―鳥上地区―

１９９９．３

編集発行　島根県横田町教育委員会

印　　刷　株式会社　報　光　社